

平成28年度 資源評価調査報告書（資源動向調査）

都道府県名	青森県	担当機関名	(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所
種名	ウスメバル	対象水域	青森県日本海側

1. 調査の概要

青森県日本海側の月別、漁業種類別、銘柄別漁獲量の集計

2. 漁業の概要

漁業種類別漁獲割合と主漁期は以下のとおりである。

青森県：刺網約5割、釣り約5割。主漁期は刺網が6～8月。釣りは周年。

3. 生物学的特性

本海域におけるウスメバルの知見については「メバル類の資源生態の解明と管理技術開発」（2001年）に詳しく記載されており、主な生物学的特性は以下のとおりである。

- ・寿命：10年以上
- ・成熟：3歳以上（主体は4歳以上）
- ・産仔期、産仔場：交尾は青森県及び秋田県で12月、山形県及び新潟県で12～1月、産仔は青森県及び秋田県で3～5月、山形県で2～4月、新潟県で2～3月。
- ・分布：日本海では石狩湾から対馬海峡まで、太平洋では函館から銚子まで。
- ・生態：仔魚期は産出から体長16mm前後まで表層で生活し、稚魚期には流れ藻に随伴し体長35mm前後で底生生活へ移行。1～3歳魚は青森県では水深50～70m付近に、佐渡島では60～80m付近に分布。主な餌生物は仔稚魚期、1歳魚ではかいあし類、2歳魚でかいあし類、ヤムシ類、3歳魚でかいあし類、ヤムシ類、端脚類、オキアミ類、4歳魚以上でオキアミ類。
- ・成長（尾叉長）：1歳で8cm、2歳で13cm、3歳で17cm、4歳で21cm、5歳で23cm、6歳で25cm、7歳で26cm（青森県～京都府の平均、雌雄とも同じ）

4. 資源状態

青森県日本海の漁獲量は、H13年に減少した後、200～300トン台で推移したが、平成23年以降は減少し、H26年は129トンと、H11年以降最低となった。H28年の漁獲量は133トンで、H26年に次いで2番目に少ない漁獲量となった。資源水準は低位、動向は減少傾向である。

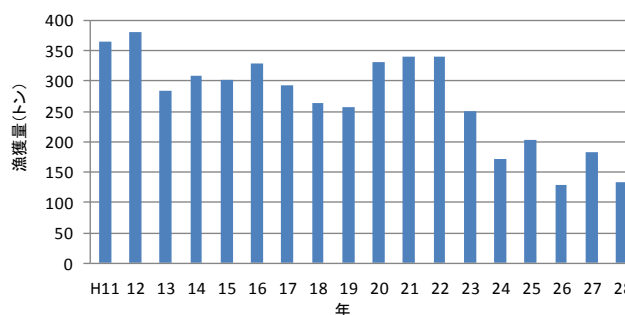


図 ウスメバルの漁獲量

5. 資源回復に関するコメント

青森県：資源回復計画（H19年3月青森県）において、小型魚の荷受け制限、休漁日を定め実施し、H23年以降は青森県資源管理指針で継続実施している。

平成28年度 資源評価調査報告書（資源動向調査）

都道府県名	秋田県	担当機関名	秋田県水産振興センター
種名	ウスメバル	対象水域	秋田県沿岸

1. 調査の概要

- ・ 月別、漁業種類別漁獲量の集計
- ・ 市場での銘柄別漁獲量の集計

2. 漁業の概要

2016年（H28年）の漁獲量は90トンであり、前年に比べ10トン減少した。漁業種類別漁獲割合は、釣りが41%、さし網が52%で、これらで93%を占めた。主漁期は釣り、さし網とも2～7月と比較的長い。最盛期はさし網で2、3月、釣りは5、6月である。地区別では県北部が65%、次いで県南部が24%を占めた。

3. 生物学的特性

日本海北部海域におけるウスメバルの生態については「メバル類の資源生態の解明と管理技術開発」（2001）に詳しく記載されている。

- ・ 寿命：10年以上、成熟：3歳以上、交尾期：12月 産仔期：3～5月
- ・ 分布：石狩湾～対馬海峡、函館～銚子
- ・ 浮遊期：産出～BL16mm、流れ藻随伴期：BL16～35mm、底生移行期：BL35mm
- ・ 成長（BL）1歳・8cm、2歳・13cm、3歳・17cm、4歳・21cm、5歳・23cm、6歳・25cm

4. 資源状態

漁獲量は2008年から2014年までは減少傾向を示したが、2015年以降はやや回復している。資源の水準は中位、動向は横ばいと判断される。

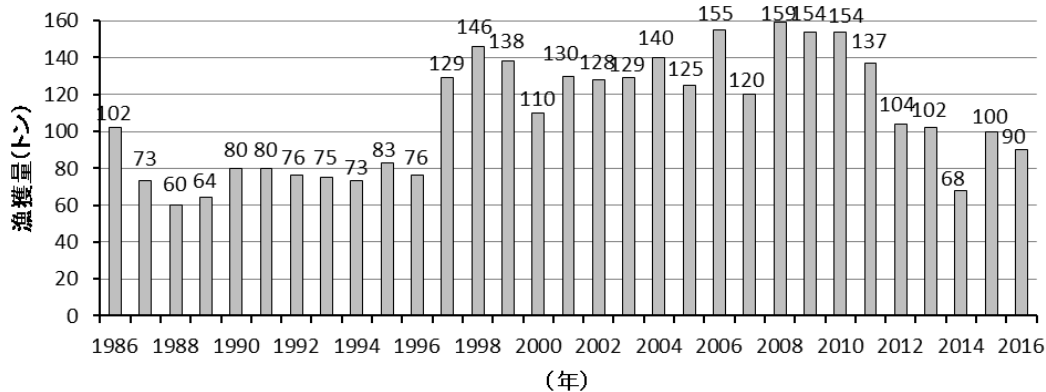


図 ウスメバル漁獲量の推移

5. 資源回復に関するコメント

秋田県漁協北部総括支所管内での銘柄別漁獲割合（重量）をみると、近年、さし網では中銘柄以上の大型魚の割合が高まっており、現状の目合制限を継続する必要がある。しかし、釣りでは小型魚の漁獲割合が増加傾向にあるため、小型魚の保護について検討を要する。

平成28年度 資源評価調査報告書（資源動向調査）

都道府県名	山形県	担当機関名	山形県水産試験場
種名	ウスメバル	対象水域	北部日本海のうち山形県沖

1. 調査の概要

月別、漁業種類別に漁獲量を取りまとめ、漁獲の変動を把握した。

2. 漁業の概要

2016年の総漁獲量17.0トンの内訳は、飛島地区を中心に4、5、9月に主漁期となるさし網が6.4トン（38%）、底びき網が5.4トン（32%）、一本釣りが3.4トン（20%）、はえなわが1.3トン（7%）等となった。2012年以降の漁獲の主体はさし網であるものの、その割合は前年に引き続いて9ポイント減少し、これに代わり底びき網の割合が18ポイント増加した。

3. 生物学的特性

胎生、仔魚産出期；3～4月、分布海域；水深70～200mの岩礁域、寿命；10年以上

4. 資源状態

1990年以降の漁獲量は、1996、2005、2009年に見られた急増とその後の漸減といったパターンが繰り返されている。2016年はこのパターンの最終状態にあるものと見られ、今後の加入による漁獲増に期待したい。

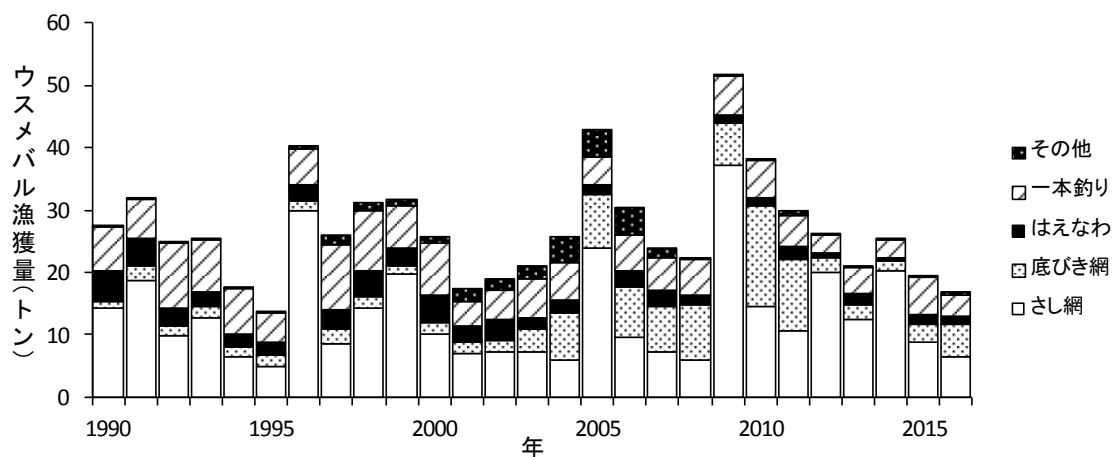


図1 ウスメバルの漁業種類別漁獲量

5. 資源回復に関するコメント

2000～2004年に、酒田市飛島地区においてウスメバルを対象とした大規模増殖場を整備した。その増殖効果について、今後も注視していきたい。

平成28年度 資源評価調査報告書（資源動向調査）

道府県名	新潟県	担当機関名	新潟県水産海洋研究所
種名	ウスメバル	対象水域	新潟県沿岸

1. 調査の概要

- ・上越市場・佐渡市場での漁獲物体長組成調査
- ・月別漁業種別漁獲量の集計

2. 漁業の概要

豊漁であった平成22年及び23年から減少が続いていたが、新潟県における平成27年の漁獲量は189トン（前年比155%）となった。

主に刺網で漁獲され8割以上を占めている。主漁期は2～7月であり、特に3～6月が多い。地区別の漁獲状況は、佐渡が全体の8割、越後側が2割（平成27年）を占めている。

3. 生物学的特性

寿命：9歳以上と思われるが不明。

成熟開始年齢：3歳～（主体は4歳～）

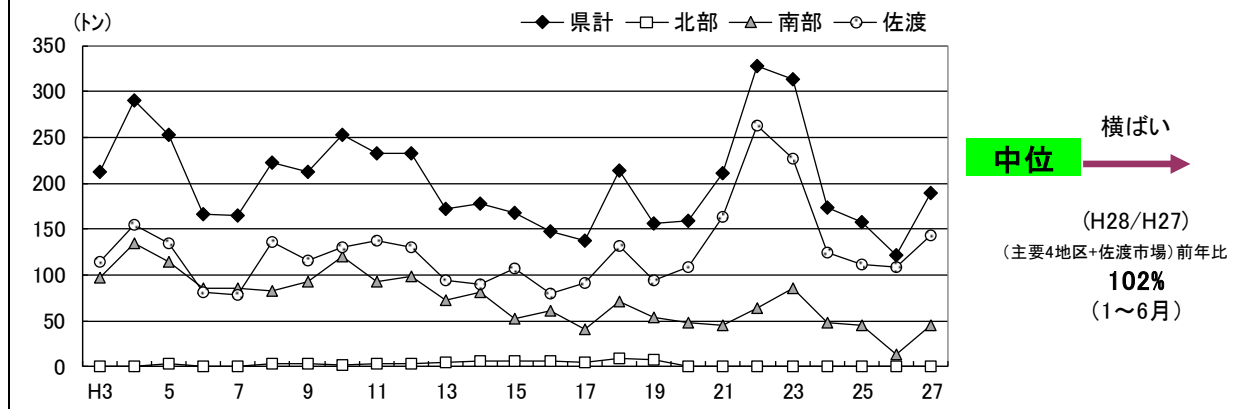
産仔期：2～3月（新潟県）で稚魚を産仔する。産仔場は不明。

索餌期・索餌場：～35mm＝浮遊・流れ藻随伴、35mm～＝底生生活、
1-2歳＝60-80m深、3歳～＝80-150m深（佐渡島沿岸）

年齢・成長：1歳＝8cm、2歳＝13cm、3歳＝18cm、4歳＝21cm、
5歳＝23cm、6歳＝25cm、7歳＝26cm（FL）

4. 資源状態

- ・県計漁獲量は平成13年以降150～200トン前後で推移していたが、平成22～23年は300トンを超えて大きく増加した。この漁獲増は平成18年の卓越年級群が漁獲の主体であったためで、平成24年以降はこれら資源の減少に伴い漁獲量も減少した。
- ・平成28年の漁獲状況は、越後側主要4地区は前年比117%、佐渡市場では前年比91%で前年並みとなった。資源水準は中位、動向は横ばい。
- ・平成28年の上越市場でのモード（FL）は23cm、佐渡市場では24cmであった。



5. 資源回復に関するコメント

- 平成 19 年度から、刺網の網目 2 寸 2 分 (6.7cm) 以上の自主規制を 2 寸 3 分 (7.0cm) 以上に引き上げた (水産資源回復計画)。
- 遊漁による釣獲は相当量あるが、正確な釣獲量が把握できないため、資源への影響についての評価が難しい。